

## 第2学年1組 国語科学習指導案

授業日 平成29年7月7日(金) 2校時  
授業者 附属新潟小学校 教諭 里村 穰  
会場 附属新潟小学校 2年1組教室

### 1 単元名 「すてき」を見つけて紹介しよう

教材文「お手紙」(東京書籍 『新編 新しい国語』 二上)

### 2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領第2章第1節国語における第1学年及び第2学年の「2 内容C 読むこと(1)ウ・エ、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(ウ)・(カ)」を受けて設定する。なお、次期学習指導要領において関わる内容も考慮して設定する。

#### 2 内容 C読むこと

(1)読むこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(1)イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(ウ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。

(カ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。

#### 【次期学習指導要領】第2章 第1節 国語 第2 2 内容

(知識及び技能)

(1)オ 身近なことを表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。

カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。

(思考力・判断力・表現力) C読むこと

イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。

エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

本単元で扱う教材文「お手紙」は、「がまくん(がまがえるくん)・かえるくん・かたつむりくん」の3人が登場する物語文(※別紙資料参照)である。がまくんとかえるくんの応答を中心に物語が展開していく。特に、かえるくんの人物像に関わる複数の言葉が用いられている文章である。具体的には、次のような言葉である。

#### 【かえるくんの人物像に関わる会話の言葉】

- ・どうしたんだい ・かなしそうだね
- ・そりゃ、どういうわけ ・一度もかい
- ・もう家へ帰らなくっちゃ
- ・しなくちゃいけないことがあるんだ。
- ・おねがいだけど
- ・もうちょっとまってみたら
- ・ひょっとして ・今日は、だれかが
- ・きっと、来るよ
- ・ぼくがきみにお手紙出したんだもの
- ・親愛なるがまがえるくん

#### 【かえるくんの人物像に関わる行動の言葉】

- ・げんかんの前にこしを下ろしていました
- ・大きいそぎで家へ帰りました
- ・家からとび出しました
- ・ふうとうにこう書きました
- ・がまくんの家へもどりました
- ・まどからゆうびんうけを見ました
- ・まどからのぞきました
- ・二人は、げんかんに出て、お手紙の来るのをまっていました
- ・ながいことまっていました

このような教材文を扱う本単元では、『お話のとびら』をつくり、『お手紙』を1年生に紹介するという言語活動を設定する。本単元でこのような言語活動を設定することは、次の二点で価値がある。一点目は、文の中における主語と述語との関係に関する知識・技能や、登場人物の言動を表す言葉を基に、登場人物の行動の理由を想像する力等の資質・能力を育成することができることである。設定した言語活動には、登場人物の中から「すてき」だと思ふ人物を選び、その人物がどのような人物なのかを紹介する活動を含めている。人物像をとらえるためには、その人物の言動に関わる言葉を手掛かりに考える。その際に子どもは、前述の資質・能力を發揮して人物像をとらえていく。二点目は、語彙量の増加と語彙力の伸長を図ることができることである。本単元では、とらえた人物像を表現する方法として、「お話のとびら」という言語活動に応じた成果物をつくる。「お話のとびら」は、四角形の周囲4辺に「①登場人物カード」「②出来事カード」「③一番『すてき』な人物紹介カード」「④読んだ感想カード」の4枚のカードをそれぞれ貼ったものである。また、1年生に紹介する際には、これらのカードを番号順に紹介してから、物語を読み聞かせる活動を行う。このような成果物をつくることを位置付けることで、子どもは、文章から必要な言葉や文を収集判断し、それらの言葉を用いて人物像を紹介する。つまり、人物像を表す語彙量を増やし、それらの言葉を根拠として人物像を表現することで語彙力を伸ばしているのである。

### 3 本単元で目指す姿

#### 言葉と言葉とを関係付けて読み、かえるくんの人物像をとらえる子ども

具体的には、**言葉の働きに着目する**という「見方・考え方」を働かせ、登場人物の言動を表す言葉を基に、登場人物の行動の理由を想像する力（②思考力・判断力・表現力）等の資質・能力を発揮して、登場人物に関わる複数の言葉を根拠として人物像を表現している子どもでもある。

＜「お話のとびら」③カードの記述例＞

一番すてきなとうじょうじんぶつは、かえるくんです。かえるくんは、なかよしパワーがいっぱいの人なんです。ともだちのがまくんをしばいて「どうしたんだい」と声をかけたり、ともだちのがまくんのためにいっしょうけんめいがんばって「大いそぎ」で家に帰ってがまくんに手紙を書いたりします。

### 4 本単元で育成する資質・能力

単元カード参照

### 5 指導計画 全8時間(240)

単元カード参照

### 6 指導の構想

単元の導入では、まず、『お話のとびら』をつくり、『お手紙』を1年生に紹介する」という言語活動とこの言語活動に対応した成果物「お話のとびら」の基版とを提示し、学習への意欲を高める。

次に、教材文「お手紙」と出合わせ、繰り返し文章を音読させる。その後、「お手紙」の登場人物と出来事とを問い、内容の大体をとらえさせる。ここで、「お話のとびら」に貼る「①登場人物カード」「②出来事カード」を記述させる。

そして、「どの登場人物が一番『すてき』だと思ったか。どうしてそう思ったか。どの言葉からそう思ったか」と問い、「お話のとびら」に貼る「③一番『すてき』な人物紹介カード」をつくるための下書きを書く場面を設定する。子どもは、一番「すてき」だと思った登場人物、その理由と根拠とを表出する。多くの子どもは、3人の登場人物の中から一番「すてき」だと思った人物としてかえるくんを選択する。しかし、例えば「一ばんすてきなとうじょうじんぶつは、かえるくんです。一どもお手紙をもらったことのないがまくんにお手紙を出したので、やさしいなと思いました。『ぼくが、きみにお手紙出したんだもの』ということばから、そう思いました」などと、人物像を単線的にとらえている(C0)。このような子どもに、次のように働き掛ける。

#### 働き掛け1

**根拠となる言葉を複数例示し、感じた疑問とその理由とを問う。**

言葉の働きに着目した問いをもたせるための働き掛けである。

まず、登場人物の中でかえるくんを一番「すてき」だという意見が最も多かったことを伝える。その後、その根拠となる言葉を複数例示する。その際、直接的な表現の言葉（「ぼくがきみにお手紙出したんだもの」「ふうとうにこう書きました。『がまがえるくんへ』」）と、間接的な表現の言葉（「どうしたんだい」「大いそぎで」）とを示す。間接的な表現の言葉を示すことで、子どもの認識にズレを生ませるためである。子どもは、「自分の考えていた言葉とは違う言葉がある。どうしてその言葉なのだろう」などと、例示された言葉と自分が根拠として挙げていた言葉との相違に気づき、疑問を感じる。

次に、「どんなことに『ハテナ』と思ったのか。どうして『ハテナ』と思ったのか」と問う。理由を表出させることで、言葉の働きに着目した学習課題の設定へとつなげるためである。自分の考えていた言葉とは異なる言葉が挙げられることで、子どもは、「どうしてその言葉がかえるくんの『すてき』が分かる言葉なのか分からないから」「ほかにもかえるくんの『すてき』が分かる言葉があると思ったから」などと、**言葉の働きに着目する**という「見方・考え方」を働かせ始め、問いをもつ。これらのような子ども発言をまとめ、「どの言葉がかえるくんの『すてき』が分かる言葉なのか」という学習課題を提示する。

#### 働き掛け2

**例示した言葉を分類掲示して分かることを問うた後に、何が分かるか、分かるためにどうするかを問う。**

課題解決の見通しをもたせるための働き掛けである。

まず、例示した言葉を、会話文の言葉（「ぼくがきみにお手紙出したんだもの」「どうしたんだい」）と、地の文の言葉（「ふうとうにこう書きました。『がまがえるくんへ』」「大いそぎで」）とで分類して提示する。このように分類して掲示することで、「かえるくんの言ったことやしたことにはヒントがありそうだ」などと、考える手掛かりをつかませるためである。

次に、「これらの言葉から、どんなことが分かるか」と、分類して掲示した言葉から分かることを問う。「どの言葉がかえるくんの『すてき』が分かる言葉なのか」という学習課題を追究しようとする子どもに、どのような言葉を探すのか、見付けた言葉から何が分かればよいのかという見通しをもたせるのである。子どもは、「左側の言葉は、かえるくんの言った言葉だ」「右側の言葉は、かえるくんのした言葉だ」などと、言動の言葉で分類されていることをつかむ。また、『ぼくがきみに

お手紙出したんだもの』という言葉から、かえるくんのやさしい気持ちが分かる」「『大いそぎで』という言葉から、かえるくんががまくんのために頑張っていることが分かる」などと、それぞれの言葉からかえるくんの心情をつかむ。

その後、「どの言葉かを見付けるためには、何が分かるか。どの言葉かを見付けるためには、どうするか」と問う。子どもは、**言葉の働きに着目する**という「見方・考え方」を働かせ、「かえるくんのしたことや言ったこと、言葉がどんなことをいっているのかが分かるか」とよきと思う。そのためにもう一度教科書を読むなどと、目的に応じて読書しようとする態度（③態度）を発揮して、課題解決の見通しをもつ。また、「言葉を見付けて仲間分けしたい」「近くの友達と相談しながら、どの言葉なのかを考えたい」などの方法も挙げる。「仲間分けする」などの発言を受けて、「Iチャート」を与える。

#### 働き掛け3

少人数グループで話し合う場を設定し、話し合う観点を提示した後、かえるくんの『すてき』を紹介するために必要な言葉を問う。

文章の文脈に即して言葉を吟味させ、かえるくんの人物像が分かる複数の言葉を判断させるための働き掛けである。

まず、生活班（3～4人）で話し合う場を設定し、話し合う観点を提示する。提示する観点は、「かえるくんの『すてき』が分かる言葉はどの言葉か」「その言葉から分かることは何か」である。観点を提示することで、文章の文脈に即して言葉を吟味させるのである。子どもは、**言葉の働きに着目する**という「見方・考え方」を働かせ、文の中における主語と述語との関係に関する知識・技能（①知識・技能）や、登場人物の言動を表す言葉を基に、登場人物の行動の理由を想像する力（②思考力・判断力・表現力）を発揮して、文章からかえるくんの言動を表す複数の言葉を選ぶ。そして、少人数グループで「かえるくんが話しているこの言葉だと思ふ。この言葉からは、かえるくんのやさしさが分かる」「だったら、かえるくんが話しているこの言葉も、かえるくんのやさしさが分かる」などと話し合い（協働性）、「Iチャート」に言葉を分類して書き込み（ツール活用能力）ながら、文章の文脈に即して言葉を吟味していく。

次に、「かえるくんのどのような『すてき』を紹介するか。そのためには、『お手紙』の中のどの言葉が必要か」と問う。子どもは、**言葉の働きに着目する**という「見方・考え方」を働かせ、文章の中の重要な言葉や文を選び出す力（②思考力・判断力・表現力）を発揮して、言葉と言葉とを関係付け、「かえるくんの友達思いな『すてき』を紹介する。そのために、友達思いの気持ちが分かるこの言葉とこの言葉を使おう」などと、かえるくんの人物像が分かる複数の言葉を判断する。

#### 働き掛け4

「一番『すてき』な人物紹介カード」を書く場面を設定する。

判断した複数の言葉を根拠として、かえるくんの人物像を表現させるための働き掛けである。

「お話のとびら」の「③一番『すてき』な人物紹介カード」を書く場面を設定する。子どもは、必要だと判断した複数の言葉を根拠として、かえるくんの人物像を表現する。

このようにして、**言葉と言葉とを関係付けて読み、かえるくんの人物像をとらえる子ども**（Cn）となる。

#### 働き掛け5

分かったこと、できたことを問う。

発揮した様々な資質・能力の自覚を促すための働き掛けである。

かえるくんの人物像をとらえた子どもに、「ここまでの学習で分かったことは何か。できたことは何か」と問い、「振り返りシート」（※別紙資料4参照）に記述させる。子どもは、「かえるくんの『すてき』を紹介するためには、かえるくんの言った言葉やした言葉を見付けるとよきことが分かった」「かえるくんの言った言葉やした言葉からどんなことが分かるのかを考えることができた」「かえるくんの『すてき』が分かる言葉を見付けるために、『お手紙』を読むことができた」などと、発揮した資質・能力を自覚する。

## 7 本時の構想（本時 4／8時間）

### (1) ねらい

かえるくんの言動を表す言葉と言葉とを関係付けて読み、かえるくんの人物像に関わる複数の言葉を根拠として、かえるくんの人物像を表現することができる。

### (2) 主張（展開）3Q（45分）

#### このような子どもに（C0）

- 言語活動と言語活動に対応した成果物の基版とを知り、学習への意欲をもっている。
- 教材文「お手紙」の登場人物と出来事をつかみ、内容の大体をとらえている。また、「お話のとびら」に貼る「①登場人物カード」「②出来事カード」を書いている。
- 「お話のとびら」に貼る「③一番『すてき』な人物紹介カード」を書くため、「誰が・どうして・どの言葉から」の3観点でワークシートに記述しているが、人物像を単線的にとらえている。

### このように働きかけると【働き掛け1】

- 根拠となる言葉を複数例示し、感じた疑問とその理由とを問う。
  - ・説明「前の時間に、『お手紙』の登場人物の中で一番『すてき』な登場人物が誰かを書きましたね」
  - ※ 登場人物（がまくん・かえるくん・かたつむりくん）の絵を掲示する。
    - ・説明「その結果、多くの人がかえるくんを選んでいました」
    - ・説明「そして、かえるくんを一番『すてき』だと選んだのは、この言葉からだそうです」
  - ※ まず直接的な表現の言葉を示し、次に間接的な表現の言葉を示す。
  - ・発問「どんなことに『ハテナ』と思ったのですか」「どうして『ハテナ』と思ったのですか」
  - ※ ワークシートを配付する。
    - ・指示「『ハテナ』と思ったことをワークシートの①のところに、『ハテナ』と思った理由をワークシートの②のところに書きましょう」
    - ・指示「どんなことに『ハテナ』と思ったのか、どうして『ハテナ』と思ったのか教えてください」
  - ※ 子どもの発言を、整理して板書する。
  - ※ 同じように疑問を感じているかを、全体で挙手で確認する。
  - ※ 子どもの発言をまとめ、「どの言葉がかえるくんの『すてき』が分かる言葉なのか」を、学習課題として板書する。
  - ※ 設定された学習課題でよいかを、全体で挙手で確認する。

### このようになり (G1)

- 一番「すてき」な登場人物としてかえるくんが選ばれた根拠となる言葉を知り、言葉の働きに着目した問いをもつ。
  - ・やっぱりかえるくんを選ぶ人が多かったんだ。
  - ・そうそう。「ぼくがきみにお手紙出したんだもの」という言葉で、かえるくんが一番「すてき」なことが分かるよ。
  - ・えー。何で。ぼくが考えていた言葉と違う。
  - ・どうしてその言葉なのかなと思いました。
  - ・どうしてその言葉が、かえるくんの「すてき」が分かる言葉なのかなと思いました。
  - ・どうして、「家からとび出しました」という言葉がかえるくんの「すてき」が分かる言葉なのかが分からないからです。
  - ・ほかにもかえるくんの「すてき」が分かる言葉があると思ったからです。
- ※ のような疑問やその理由を記述、発言している、あるいは、全体確認において挙手している状態を、言葉の働きに着目するという「見方・考え方」を働かせ始め、問いをもった姿と判断する。

### このように働きかけると【働き掛け2】

- 例示した言葉を分類掲示して分かることを問うた後に、何が分かるか、分かるためにどうするかを問う。
  - ※ 例示した言葉を、会話文の言葉（「ぼくがきみにお手紙出したんだもの」「どうしたんだい」）と、地の文の言葉（「ふうとうにこう書きました。『がまがえるくんへ』」「大きいぞいで」）とで分類して提示する（左側に会話文の言葉、右側に地の文の言葉）。
  - ・発問「では、ここに貼られている言葉からは、どんなことが分かりますか」
  - ※ 子どもの発言を受け、分類した言葉をラベリングしたり、分かることをその言葉の付近に書いたりする。また、言動、心情に関わる発言が出されない場合、ほかにあるかを問う。
  - ・発問「どの言葉かを見付けるためには、何が分かるかよいですか」
  - ・指示「分かるかよいことを、ワークシートの③のところに書きましょう」
  - ・指示「分かるかよいと思ったことを教えてください」
  - ※ 子どもの発言を、整理して板書する
  - ※ 必要に応じ、子どもの発言内容を全体に問い返す。
    - 「○○さんの言いたいことは分かりましたか」「つなげる人はいますか」
  - ・発問「どの言葉かを見付けるためには、どうするとよいですか」
  - ・指示「こんなことをするとよいと思うことを、ワークシートの④のところに書きましょう」
  - ・指示「どんなことをするとよいと思ったか、教えてください」
  - ※ 子どもの発言を、整理して板書する
  - ※ 必要に応じ、子どもの発言内容の理由を問い返す。
    - 「どうしてそう思ったのですか」
  - ※ 同じような理由で教科書を読もうとしているかを、全体で挙手で確認する。

### このようになり (G2)

- 課題解決の見通しをもつ。
  - ・かえるくんのしたことや言ったことにヒントがありそうだな。
  - ・左側の言葉は、かえるくんの言った言葉だよ。

- ・右側の言葉は、かえるくんのした言葉だ。
- ・「ぼくがきみにお手紙出したんだもの」から、かえるくんのやさしい気持ちが分かります。
- ・「ふうとうにこう書きました。『がまがえるくんへ』」から、がまくんのために手紙を書いてあげたかえるくんのやさしい気持ちも分かります。
- ・「どうしたんだい」という言葉から、かえるくんががまくんのことを心配していることが分かります。
- ・「大いそぎ」という言葉から、かえるくんががまくんのために頑張っていることが分かります。
- ・かえるくんが言ったこと、言葉やしたこと、言葉が、どんなことをいっているのかが分かると思います。
- ・かえるくんの「すてき」が分かる言葉を探すために、もう一度教科書を読みます。
- ・かえるくんの言ったことやしたこと、言葉に、かえるくんの「すてき」が隠れていると思うので、教科書を読み直したいです。
- ・言葉を仲間分けしたいです。分けた方が考えやすそうだからです。
- ・近くの人と相談しながら、どの言葉なのかを一緒に考えたいです。相談しながら考えた方が、探しやすいと思うからです。

※ .....のように、人物像をとらえるために教材文を読もうとする趣旨の発言をしている、あるいは、全体確認において同意の反応（挙手・つぶやき・頷き）を示している状態を、③態度を発揮した姿と判断する。

### このように働きかけると【働き掛け3】

- 少人数グループで話し合う場を設定し、話し合う観点を提示する。
- ・指示「それではこれから、どの言葉がかえるくんの『すてき』が分かる言葉なのかを班で考えましょう」
- ・説明「机を班の形にして、話し合います。話し合うことは、この2つです」
- ※ 話し合いの観点を提示する。
  - ①かえるくんの『すてき』が分かる言葉はどの言葉か
  - ②その言葉から分かることは何か
- ・説明「班に『Iチャート』を配ります。選んだ言葉とその言葉から分かることを書きます」
- ※ 班に「Iチャート」を配付する。
- ※ 適宜、各班のところに行き、どの言葉を選んだのか、その言葉からどんなことが分かるのかを問うていく。
- ・指示「どの言葉について話し合ったのか、その言葉から分かることを発表してください」
- ※ 子どもの発言を、整理して板書する。
- ※ その言葉について、同じように考えていたかを全体で確認する。
- かえるくんの『すてき』を紹介するために必要な言葉を問う。
- ・発問「かえるくんのどんな『すてき』を紹介しますか。そのために、『お手紙』の中のどの言葉が必要ですか」
- ・指示「かえるくんのどんなところが『すてき』なのか、その『すてき』を紹介するために『お手紙』の中で必要だと思う言葉をワークシートの⑤のところに書きましょう」
- ※ 数名の子どもに、かえるくんのどのような『すてき』を紹介するのか、そのためにどの言葉が必要だと考えたのかを発表させる。

### このようになり (G3)

- 文章の文脈に即して言葉を吟味する。  
(少人数グループでの話し合いの一例)
- ・かえるくんが言った「もう家へ帰らなくっちゃ」は、どうかな。
- ・そうだよね。その言葉から、がまくんに分らないように手紙を書こうとするかえるくんの友達思いの気持ちが分かると思うな。
- ・だったら、かえるくんが言った「おねがいでけど」も、どうかな。
- ・どうして。その言葉から、どんなことが分かるの。
- ・「おねがいでけど」って、かえるくんがかたつむりくんをお願いしているよね。お手紙を待つ時間が不幸せだと言っていたがまくんのためにお願いしているから、この言葉も友達思いの気持ちが分かると思う。  
(話し合いの内容発表の一例)
- ・ぼくたちの班では、かえるくんがした言葉で、「家からとび出しました」という言葉が出ました。「大いそぎ」という言葉と似ているんですけど、この言葉から、がまくんのために頑張っているかえるくんの気持ちが分かると思います。
- ※ .....のように、「かえるくんが言った言葉」「かえるくんがした言葉」のような主旨の発言をしている姿を、①知識・技能を発揮した姿と判断する。
- ※ .....のように、登場人物の言動を表す言葉から、登場人物の心情を想像している姿を、②思考力・判断力・表現力を発揮した姿と判断する。
- かえるくんの人物像が分かる複数の言葉を判断する。
- ・ぼくは、かえるくんの友達思いな「すてき」を紹介しようと思います。そのために、.....

- へ帰らなくっちゃ」と「お願いけど」という言葉が必要だと思いました。
- ・わたしは、かえるくんのがまくんのために頑張っている「すてき」を紹介します。そのために、「大いそぎ」と「家からとび出しました」という言葉が必要だと思いました。
  - ・がまくんを心配してあげるやさしいところが「すてき」だと思うから、「どうしたんだい」と「げんかんの前にこしを下ろしていました」という言葉が必要だと思いました。
- ※ のように、人物像を表現する根拠となる複数の言葉を判断している姿を、②思考力・判断力・表現力を発揮した姿と判断する。

本時ここまで

#### このように働き掛けると【働き掛け4】

- 「一番『すてき』な人物紹介カード」を書く場面を設定する。
  - ・指示「これまでの学習をいかして、『お話のとびら』③のカードを書きましょう」
- ※ 「お話のとびら」の「③一番『すてき』な人物紹介カード」を配付する。

#### このようになり (Cn)

- 判断した複数の言葉を根拠として、かえるくんの人物像を表現する。  
 <「お話のとびら」の「③一番『すてき』な人物紹介カード」の記述例>  
 一番すてきなとうじょうじんぶつは、かえるくんです。かえるくんは、なかよしパワーがいっぱいの人なんです。ともだちのがまくんをしばいして「どうしたんだい」と声をかけたり、ともだちのがまくんのためにいっしょうけんめいにながらばって「大いそぎ」で家に帰ってがまくんに手紙を書いたりします。

#### このように働き掛けると【働き掛け5】

- 分かったこと、できたことを問う。
  - ・説明「『お話のとびら』の③カードを書くことができましたね」
  - ・発問「ここまでの学習で分かったことは何ですか。また、できたことは何ですか」
  - ・指示「分かったこと、できたことを振り返りシートに書きましょう」
- ※ 振り返りシートを配付する。

#### このようになる

- 学習を振り返り、発揮した資質・能力を自覚する。
  - ・かえるくんの「すてき」を紹介するためには、かえるくんの言った言葉やした言葉を見付けるとよいことが分かりました。(①知識・技能)
  - ・かえるくんの言った言葉やした言葉から、どんなことが分かるのかを考えることができました。(②思考力・判断力・表現力)
  - ・かえるくんの「すてき」が分かる言葉を見付けるために、「お手紙」を読むことができました。(③態度)

## 8 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け4を受けて、 のように、必要だと判断した複数の言葉を根拠として、かえるくんの人物像を表現しているかを、「お話のとびら」の「③一番『すてき』な人物紹介カード」の記述から検証する。
- ② 働き掛け1を受けて、 のように、言葉の働きに対する疑問を表出したり、全体確認において挙手したりしていただくを、ワークシートの記述や発言、挙手から検証する。
- ③ 働き掛け2・3を受けて、次のような姿が見られたどうかを、記述及び発言、実際の子どもの姿から検証する。
  - ア 働き掛け2において、 のように、人物像をとらえるために教材文を読もうとする趣旨の記述や発言をしている、あるいは、全体確認において同意の反応（挙手・つぶやき・頷き）を示していたら、③態度を発揮した姿と判断する。
  - イ 働き掛け3において、 のように、「かえるくんが言った言葉」「かえるくんがした言葉」のような主旨の発言をしている姿を、①知識・技能を発揮した姿と判断する。
  - ウ 働き掛け3において、 のように、登場人物の言動を表す言葉から、登場人物の心情を想像して発言している姿を、②思考力・判断力・表現力を発揮した姿と判断する。
  - エ 働き掛け3において、 のように、人物像を表現する根拠となる複数の言葉を判断して記述をしている姿を、②思考力・判断力・表現力を発揮した姿と判断する。